

園芸科：今週の農場の1コマ(7)とトウモロコシの収穫

2020.07.14「今週の農場の1コマ(7)」

今週の農場の1コマが更新され、新しい写真が展示されています。今週の1枚は、トウモロコシ茎の先端にススキの穂のような感じで咲いている雄花穂切りの写真でしょうか。生徒が、一生懸命作業している様子がうかがえます。

「雄花穂切り」の作業について、調べてみました。

トウモロコシは、ススキの穂のような部分(雄花)から花粉を落として、トウモロコシの実の先端についている通称「ひげ」と呼んでいる雌しべ(絹糸)で受粉をします。受粉の役目が終わった雄花穂を刈り取り、畑の外に出す作業が雄花穂切りです。

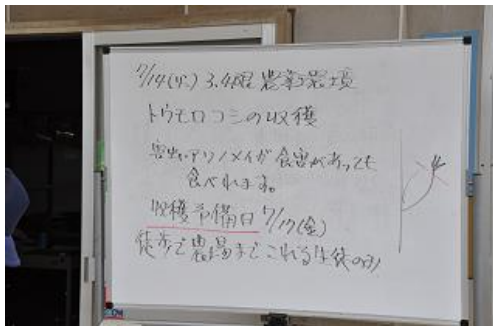
雄花には、蛾(アワノメイガ)が卵を産み付け、孵化した幼虫が茎をたどって実にとどり着き食害をおこします。孵化した幼虫が実にとどり着く前に受粉の役目を終えた雄花穂を刈り取り、畑の外に出してしまうのがこの作業の目的なんですね。



(出典：JA グループ福岡)

2020.07.14「トウモロコシの収穫」

7月14日(火)の4時間目に、鶴舞グリーンキャンパスで行われた園芸科1年D組の「農業環境」の授業の様子を見学させていただきました。この日は、3・4時間目の2時間続きの授業の中で、今まで生徒たちが育ててきたトウモロコシの収穫が行われました。生徒たちは、自分たちの担当したエリアからたくさんのトウモロコシを収穫しました。収穫の際には、もぎたてのトウモロコシを生で試食し、出来栄と甘さを確認したようです。私が、到着したころには、収穫は終了しており、各自が収穫したトウモロコシをトレーに入れ、ちょうど圃場から戻ってくるころでした。生徒の顔は、収穫できたうれしさでしょうか。最高にいい笑顔を見せてくれました。



本時の授業内容が示されたホワイトボード



収穫したトウモロコシを見せてくれましたとてもいい笑顔をしていました